すもうの好きな むじな

伝承地　外川地域

むかしむかぁし、外川の海岸の近くに、すもうの好きな、大むじなが住んでいました。

漁夫がさかなを持って通ると、いつも道をふさいで

「すもうをしようよぉ」

と言って漁夫を負かしては、さかなを取り上げていました。

漁夫たちは、とても困っていました。

ある日、とてもかしこい〝金さん〟という漁夫が、いつものようにイワシをぶら下げて通りかかりました。

すると、金さんを呼び止める声がします。

金さんが振り返ると、例の大むじなが

「おい、すもうをとらないか」

と言いました。

金さんは、しばらく考えて聞きました。

「もし、おまえが負けたら、どうするのだ」

すると大むじなは、

「俺を負かす人は、だーれもいないよ。でも、もし負けたら、もうさかなを取り上げないことにするよ」

と約束しました。

さあ、すもうをとることになりました。

金さんは、大むじなと仕切り始めました。

そして、とっさに地面に伏せて
「俺が勝った〜」
と大声をあげました。
大むじながびっくりしているところへ、さっと立ち上がり、その胸をドンッと突き飛ばしました。
ふいをつかれた大むじなは、思わず尻もちをついてしまいました。
〝金さん〟の勝ちです。
大むじなは、たいへんくやしがりました。そして、それからは漁夫たちにいたずらをしたり、すもうをとろうなどと言わなくなりました。
その後、大むじなの姿を見ることはなくなりました。

もうれんやっさ

伝承地　外川地域

『もうれんやっさ』、それは〝船だま〟、つまり、船幽霊のことです。
海で亡くなった人々の魂のことです。
この『もうれんやっさ』は、霧の深い真夜中の海に出ると言われています。
真夜中過ぎ、沖で漁をしていると、今までザブンザブンとあった波が、ピタリとなくなり、いつしか深い霧が出て、先も見えなくなります。
すると不思議なことに、霧がボーっと明るくなって、今まで見たこともない、きれいな船が目の前に現れます。

そして、人を呼ぶような声がしたかと思うと、すっと消えて、また霧の深い闇夜になるのです。

その不思議な船は、まったく音も立てずに、漁船を誘っているように見えるそうです。

ある時、漁夫が沖合いで夢中で漁をしていると、今まで荒れていた海が急に静かになり、舳先に細長い手が伸びてきて、

「ひしゃく、かしてくれ～」

という不気味な声が聞こえてきます。

この時、うっかり底がちゃんとあるひしゃくを、海に投げてしまったら、さあ大変。船にどんどん水を入れられ、あげくのはてに、船もろとも海中に引き込まれ、沈没してしまうそうです。

そして、いつしか霧も晴れ、明かりのついたきれいな船も消えてしまい、荒れた海も、穏やかになるといいます。

この不思議な出来事は、海で亡くなった漁夫たちの魂が、仲間を恋しく思い、さまよっているからだということです。

【現況】 外川周辺の漁夫は、今でも『船だま』の人形を船に祀っています。